

デュッセルドルフ自転車デー「Radaktiv2010」

ノルトライン＝ヴェストファーレン州都デュッセルドルフ市は、自転車交通環境の促進のために自転車道整備等に力を入れている。同市は6月下旬の土曜日を「自転車デー」と称し、本年も自転車催事「Radaktiv」を開催した。

【Radaktiv2010】

主催：Schmidtstelle

協賛：デュッセルドルフ市交通管理局、自転車小売店「Rad ab」、健康保険「AOK」

会場：ライン川沿い特設会場

会期：2010年6月26日(土) 11:00～18:00

来場者数：30,000人(昨年20,000人)

出展社数：合計76社(昨年50社)



Radaktiv 会場の様子



特設会場（電動アシスト自転車の紹介）



AOK ブース

本催事は2006年に開始され今年で5回目となり、出展者は前年比52%増の76社となった。出展者の多くは地元の自転車小売店や、周辺地域の各団体のインフォメーションブースであった。なお、今年から公的健康保険「AOK」が協賛者に加わり自らブースも構えていた。

主な自転車ブランドは、昨年と同じくジャイアント、BMW Bikes、スペシャライズド、リー

ゼ&ミューラーなどであった。一方、スポーツ車ブランドの STEVEN、CUBE と電動アシスト自転車のラレーは、取扱の地元自転車小売店 LUCKY BIKE、JUNG & VOLKE が今回参加しなかったため展示されなかった。部品では、シマノ、ABUS、ブッシュ&ミューラー等の他、付属品もヘルメット、サイクリングウェアなど各小間は小規模ながらも展示品は多彩であった。

車種では、スペシャライズド、BMW Bikes 等はスポーツ車やトレッキング車が主体であったが、今年は各出展者の小間に電動アシスト自転車の展示数が増えていた。主なブランドでは、ジャイアント、リーゼ&ミューラー、フライヤー及びヘルカマ等であったが、通販の ROSE や Patria のブースにも同車種は出展車の一部に含まれていた。



電動アシスト自転車（左；ジャイアント、右；Lifebike）



電動アシスト自転車（左；ROSE 右；Patria）

会場は昨年と同じ屋外のライン川沿いで、誰でも無料で気軽に場内を自由に見てまわれるものであった。会場内には子供車、リカンベント及び電動二輪車「セグウェイ」の試乗コースもあり、商品を見るだけでなく体験参加できるコーナーも用意されていた。また、特設ステージでは電動アシスト自転車の特徴を説明するプログラムもあり、同車種に関心のある見学者が足を止めて話に聞き入っていた。今回は開催当日、晴天に恵まれ来場者数は昨年より 10,000 人も増加して 30,000 人となった。会場のライン川沿いにはサイクリングコースが通じており、日ごろから多くのサイクリストが集まる場所でもある。電動アシスト自転車に乗っている人も多数見かけ、当地でも同車種の普及が始まっていることを実感した。



電動アシスト自転車のサイクリストたち

また、今回も全ドイツ自転車クラブ(ADFC)の企画・運営により、会場には数多くのサイクリストが集まった。参加人数は昨年より倍増の2,000名となった。昨年より5コース増の22コースが設定され、各地から各々出発し市内の集合地点からRadaktiv会場までの走行に際しては、警察による交通規制と誘導のもと安全管理がなされ、スピードや順位を競うことなく幅広い年齢層の人々がゆっくりとしたペースで走行していた。自転車利用による二酸化炭素削減を訴えるサイクリスト集団の突然の出現は、街中を行き交う人々の注目を集めていた。

本催事はまだ始まったばかりで市民への周知は充分とは言えないが、毎年この自転車デーにサイクリストが集まり、デュッセルドルフ市内で自転車走行を楽しむことが恒例行事となることに期待したい。



ADFCの2,000名サイクリングの様様

以上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

